

変化はチャンスである?! 元号が平成から令和に変わりました。どう世の中が変わっていくか多少期待と不安を感じている方もいるでしょう。急に変わることは無い、少なくとも東京オリンピック終了までは大丈夫だろうと思っている人も多いと思います。しかし、米中の覇権争いや北朝鮮の動向によっては激変する可能性もあります。そんな大きなことには関心無く、元号やオリンピックを自分の商売に何とか活かさないか試行錯誤で行動している人もいます。今月は変化について考えてみましょう。

「強いものが生き残るのではない。環境に適応出来たものが残るのだ」は、生物界のみならず、企業においても通用する。自分が思ったように変わってくれば有り難いのだが、想定外で環境が変わることが多い。対応を誤れば損失を発生させ、最悪の場合、事業を終わらせることになる。だから、変化は好きでない人もいる。もちろん努力が嫌いな人は底辺にいるはずだからここでは問題にしない。知識や知恵をあまり使わず、コツコツと行動し体で覚えたものが、あっという間に時代遅れとなるのは寂しいものである。急な変化にはついていけないから、ゆっくりとした変化を希望する。しかしながら、「ゆでカエルの話」のように、進行がゆっくりだと対策が遅くなり、手遅れになってしまう可能性がある。また、変化が好きでない人は、実際に身に危機が迫らないと行動しないことが多く、対応が遅れがちである。したがって、何とか生き延びても到底上位には食い込めそうにない。

逆に、変化が好きで人もいる。この中には、知識や知恵に秀でているが、努力はあまり好きでない人がいる。この人達も急速な変化は得意でない。兎と亀の話の兎のようなタイプだ。適度な変化が続き、知識・知恵を使うのが得意でないコツコツ努力型が もたもたしている間に、リード出来るからである。

最強なのが知識・知恵に秀でていて、さらに努力することをいとわないタイプ…兎と亀の両方の良いところを持つもの。このタイプは滅多にいない。だから、大きな変化が嫌いでない。チャンスと捉えることが出来る。名経営者の言動からもわかる。「好況の時は他も良くて目立たなかったが、不況になると他社より大きく業績を伸ばした」と言う。好況時に他所がやらない不況に備えた対策の準備を行う。実際の不況時には、業績が良かったとき手を付けることの出来なかった重要だが抵抗も多い微妙な事案に、不況を理由として大胆に取り組む。だから、不況が終わった後、大きく伸びる。

ところで、変化の前兆も努力すれば掴むことが出来ると言われる。理屈よりは直感だそうだ。自分独自の観測点からの異常が複数の発生した場合など。そして、人より一歩先の行動が大きな差となる。

米Amazonの創業者も元は、投資のコンサルタントだったとか。インターネットのビジネスが急速に伸びていることを知って、西海岸へ飛び、ITの技術者を探し、取りあえず出来そうなインターネットの本屋からスタートしたそうです。今やネット最大の総合流通業者であり、物流配送業者でもあり、さらにインターネットインフラの時間貸しの最大手でもあります。

ところで、大きな変化も思ったより短期間で完了するものです。明治維新しかり、太平洋戦争しかり、インターネットもそうですが数十年掛かるのでは無く、特に大きく動くのは五年程度です。幕末も多くの武士は様子見でした。納得してから準備・行動を始めても遅いのです。先頭集団に追いつくのは不可能ではないにしろ、特別の努力を要します。ですから、変化の兆しが見えたらチャンスと捉え、すぐ準備。変化が確実となったなら直ちに行動。経過の分析で進退を判断します。みんながやり始めた時は、ビジネスの旨味が無くなる頃です。